

令和7年度 第8回崇化館地域会議 会議録

■日 時 令和8年1月20日（火）午後6時30分～午後8時
■場 所 崇化館交流館 4階 第2会議室
■出席者 <委 員> 伊藤 貴史 稲本 泰孝 井上 真一 太田 真由美
木村 友浩 柚植 伸夫 戸田 博基 永井 靖美
服部 啓二 林本 基 日恵野 雅俊 藤井 康博
本多 銳孝 山内 由美子
<欠 席> 永山 慎二 藤村 匠泰 松山 純成
<交流館> 森波 かおり（崇化館交流館長）
<事務局> 田嶋 優俊（地域交流課担当長） 柴田 健太郎（地域交流課主査）

■次 第

- 1 開会 豊田市民の誓い唱和
- 2 会長あいさつ
- 3 検討事項
これまでの検討を踏まえた取組内容の検討

■議 事（要約）

3 検討事項

これまでの検討を踏まえ、以下のテーマに対する取組内容をグループワークにて検討した。

- ①交流機会の創出（地域住民間の交流）を目的に、自治区（又は地域）と学生（主に中学生～大学生）がかかわることができる取組
- ②防災・防犯対策を目的に、自治区（又は地域）と学生（主に中学生～大学生）がかかわることができる取組

<グループワークによる検討結果>

A グループ

①に対する取組

普段何気なく捨てているゴミは、クリーンセンターなどの存在によって適切に処理されていることを知るために様々な施設のバスツアー見学を実施する。加えて、自治区や地域の存在によって成り立っていることも学生が知ることができるとよい。実施に当たっては、大学生や豊田てらこやに企画、運営に協力いただき、高校生や中学生、小学生を引っ張ってもらえるとよい。

②に対する取組

防災に関して、避難所等の現状の把握、事前準備、防災意識の向上を目的として、避難所運営ゲーム（HUG）を開催する。実施に当たっては同上。

B グループ

①に対する取組

イベントなどの取組の実施や継続的な取組については、それを動かす人や組織が必要。自治区は役員、担い手が不足している現状から難しく、市や交流館の力を借りることが現実的ではないか。大学生に協力を仰ぐことについても、簡単に動いてくれるわけではなく、ゼミの先生や大学職員など、核になる大人が必要ではないか。

②に対する取組

防災などについては、専門家である大学の先生やゼミ生に協力いただくことで、現状把握や対策の評価につながるのではないか。地域住民に防災意識を啓発するのであれば、イベントの実施は効果的。いずれにしても協力してもらえる相手が重要になってくる。

C グループ

①、②に対する取組

多くの地域住民が参加するイベントを継続的に実施するのは困難であると考える。ただ、防災については、命を守ることにつながるため、みんなを一つの方向にまとめることができるのでないか。災害時に正常性バイアスを働かせないためにも、対策や計画の検討をした上で、豊田てらこやに協力してもらい、子どもや学生に啓発することが重要ではないか。実際に、豊田てらこやが熱心に子どもたちに教えている姿を見て、非常に感心した。また、水害時においては、中学校区を超えた近隣自治体との協力、連携が重要であるため、それらに対する取組も重要と考える。なお、防災・防犯対策ではなく、防災に絞った方がよい。

次回以降の検討について

今回の取組案を事務局で整理し、取組内容、協力してもらう相手等を深める検討につなげていく。

以上

《今後の予定》

●令和7年度 第9回崇化館地域会議

日 時：令和8年2月17日（火）午後6時30分～

場 所：崇化館交流館 4階 第2会議室